



21世紀型科学者

研究開発課題

グローバルな課題を解決する21世紀型科学者の育成プログラム

研究開発の概要

1. 科学研究に必要な課題を発見する力を養成するプログラム開発
2. グローバルな課題の解決に挑戦するコア生徒の育成
3. 生徒間で探究力を効果的に高め合う手法の開発
4. 地域との連携・交流の推進及び成果の還元・普及
5. 探究力を育成する指導法・評価法の共有による教員の指導力向上

第1期の成果

- 科学への興味・関心、科学技術への指向性の向上
 - ➡ 伸び率10%以上を達成！
 - ・課題研究は知的好奇心を高めている
指定前63.0% → 指定後77.9%
 - ・科学技術、理・数の理論等への興味
指定2年次56.9% → 指定4年次72.8%
 - ・理科実験への興味
指定2年次65.0% → 指定4年次75.4%
- 国際共同課題研究・合同課題研究発表会の実施
 - ➡ 台湾・国立中科実験高級中学
- コンテスト全国大会上位入賞 指定前2件 → 指定後16件
 - ➡ Intel ISEF, TISF日本代表出場



- 4 ■ 小・中学生対象の科学実験教室や科学研究発表大会において、本校生徒が指導・発表を行うことにより、科学技術系人材の裾野を広げるとともに、将来同分野で活躍しようとする女性を増やす。

- 3 ■ 課題研究において、FSチームの生徒が探究活動をリードし、他の生徒へ経験や洞察力を波及させることにより、生徒全体で意見や知識を共有し、研究の質を向上させる。



- 2 ■ フューチャー・サイエンス・グループ(FSG)を新設し、FSGの生徒を中心に、国内研修やアジアの理数系重点校との共同研究、米国科学研修を実施することで、国際的視野を持ち、新しい価値を他者と協働して創出できる人材を育成する。

- 1 ■ 環境・エネルギー、情報、医療・健康等グローバルな課題を取り上げ、それらに取り組む研究者・企業家の研究と生き方に直接触れさせることにより、課題を発見し、解決に臨むための使命感を育む。

- 5 ■ 教員による「探究指導評価研究会」を設置し、指導力のある教員を中心としたコアメンバーと他のチーム教員との経験交流や、PDCAサイクルによる評価の再構築を行うことで、世代交代が進む中での学校全体の教員の指導力を向上させる。

▶▶▶ 21世紀型科学者とは、
科学技術分野において、グローバルな課題を解決し、サステナブルな社会を実現するために必要な探究力を備えた人材